

SFRR Japan NEWSLETTER

January 1, 2012



Top News

2012年 辰年



理事長 小澤 俊彦

年頭のご挨拶



日本酸化ストレス学会が新たな学会として発足してから、無事に5年が過ぎ、本年は6年目を迎えます。また、私も吉川敏一前理事長からバトンを引き継いで1年間無難に任務を努めることができました。これもひとえに会員各位の日頃よりの様々なご協力、ご尽力の賜物であると心より感謝申し上げます。

昨年は、3月11日の東日本大震災と大津波、それによる原発事故で会員諸氏におかれましては極めて厳しい研究環境になられた方々も多くおられると思います。心よりお見舞い申し上げますと共に速やかな回復を祈念致しております。また、昨年の学術集会の会場も仙台から北海道のルスツリゾートに変更し、無事に、かつ盛大に行われたことは河野当番会長ほか関係者の皆様の臨機応変の対応のお陰と感謝する次第です。本年は6月に寺尾当番会長のもと、徳島で学術集会が開催されますので、会員各位の積極的な参加を期待しております。

一方、筆筆すべきこととしては、吉川前理事長が4月より京都府立医科大学の学長に就任されたこと、また秋には内海英雄理事が酸化ストレス研究の成果で紫綬褒章を受章されたことなど酸化ストレス研究が大きく評価されたものと考えております。このような状況下で、本学会の登録会員数も900名近くなり、大変順調に組織化が進んでおり、会員各位の酸化ストレス学研究への関心の深さを感じておりますが、更に一層会員の増加をはかりたく、関係各位にお願いする次第です。特に、若手研究者の増加が新しい発想と柔軟な考えが研究の発展と拡大につながるものと考えております。一方、本学会のOfficial Journalである「Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)」はインパクトファクターが上昇傾向にあることは会員各位のご協力の賜物と深謝いたしております。より一層の上昇を目指すうえで、会員各位が国際的な視野を広げ、JCBNに多くの投稿を期待しております。以上が、新年を迎えるにあたっての私の思いであります。最後になりましたが、本年も会員各位におかれましては健康と安全に十分に留意され、益々活躍されることを祈念しております。

New! *** 役員新任報告 ***

2011年度役員会にて、新しい役員が下記の通り選出されました。

新理事：安西和紀、藤井順逸、李 昌一（以上4名）

新評議員：足立哲夫、山盛徹、柴田亮行、岡田太、大和真由美、福本義弘（以上6名）

功労会員：牛島義雄（評議員より）



SFRR International 2014

日本開催決定！



Society for Free Radical Research Internationalの第17回Biennial Meetingの開催ホストとしてSFRR Japan（日本酸化ストレス学会）が選ばれました。2011年の11月に開催されたInternational Committee会議においてSFRR Japan代表として二木鋭雄先生からプレゼンテーションが行われ、満場一致でSFRR Japanが選ばれました。1988年京都、2000年京都開催に続いて、2014年京都で3度目のSFRR Internationalを開催させていただきます。

SFRR Asiaのメンバーからの協力も得られることが決まっております。早々に組織委員会を編成して準備に取りかかる次第であります。場所は国立京都国際会館、会期は2014年春を予定しております。会員の皆様方のご支援をいただき、実りある会、若手研究者に大きな刺激を与える会にしたいと考えております。東日本大震災による放射線障害の治療・予防に関する特別シンポジウムを行いたいとも考えております。ご協力をよろしく御願い申し上げます。

内藤裕二（日本酸化ストレス学会副理事長・庶務幹事）

◇◇◇ 年次学術集會案内 ◇◇◇

第65回日本酸化ストレス学会学術集會

日時：2012（平成24）年6月7日（木）～8日（金）
会場：徳島県郷土文化会館（JR徳島駅から徒歩10分）
〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地
TEL 088-622-8121 / FAX 088-622-8123
http://www.kyoubun.or.jp/



開催のご挨拶

会長：寺尾純二
（徳島大学ヘルスポリオサイエンス研究部教授）



このたび、四国阿波の徳島にて第65回酸化ストレス学会学術集會を開催することになりました。担当会長としてご挨拶申し上げます。昨年度は3月11日に発生した東日本大震災により杜の都仙台での開催が不可能になりましたが、7月2-3日に北海道ルスツにおいて滞りなく開催されました。この間、大会長の河野雅弘大会長、小澤俊彦現理事長、吉川敏一前理事長や、学会事務局の先生方の開催へ向けてのご尽力に改めてお礼申し上げます。大会では被災地の先生方を含めて多数の会員が参加され、酸化ストレスの諸問題に活発な議論がなされました。今回の開催にあたっては、昨年の大会でさらに高まった会員の皆様の本学会への熱い期待にこたえるべく、関係者一同により準備を進めているところです。「酸化ストレス」はすでに一般用語になっていますが、その研究領域は様々な学問分野にわたっており、現在でも広がっております。また、酸化ストレス応答は生物の基本的生命活動として位置づけられるようになってきました。この学際的な研究の成果を発表討論する場としての本学術集會の発展がますます望まれています。また、本学会が国際フリーラジカル学会の日本支部に位置づけられることから、本学術集會の国際化も促されるところです。我が国の酸化ストレス研究を先導する学会に相応しい学術集會にするべく、鋭意プログラムを検討しております。

四国徳島は八十八か所霊場巡礼の旅立ちの地であり「発心」の道場といわれています。また、四国は「癒しの国」ともいわれ、毎日の酸化ストレス研究から生まれたストレスを癒やすには絶好のロケーションです。酸化ストレス研究の発心に戻り、鳴門渦潮、吉野川などの藍より青き海川、大歩危小歩危などの山深い自然、鳴門鯛、阿波尾鶏をはじめとする海の幸山の幸をお楽しみください。高速道、JR各線や東京一徳島間、福岡一徳島間の航空便に加えて、京阪神からは高速バスが大変便利です。会員の皆様には万幸練り合わせのうえ、ご参加いただきますようご案内申し上げます。



*** 次々期学術集會予定 ***

第66回日本酸化ストレス学会学術集會

日時：2013（平成25）年 ※日時未定
会場：中部地域
会長：豊國伸哉（名古屋大学大学院医学研究科 教授）



～ 2011年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第64回学術集会(2011年7月 北海道開催)において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、下記受賞者が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。



「2011年度 学会賞 を受賞して」

宮田 直樹

名古屋市立大学大学院薬学研究所 教授

この度、2011年度の日本酸化ストレス学会の学会賞をいただき、推薦し審査をしてくださいました先生方ならびに酸化ストレス学会の会員の皆様にお礼申し上げます。

私自身の酸化ストレスあるいは活性酸素種との出会いは、1986年にさかのぼります。当時、厚生労働省国立医薬品食品研究所(国立衛研)で研究を行っていました私に二つのきっかけがありました。米国NIHからの留学から戻った私は、所属していた研究部の部長の指示で、当時環境汚染物質として話題になっていたNOxの研究に取り組みました。NOxと種々の多環芳香族化合物との反応で生成する生成物の反応性解析研究から今に続くNO発生剤の研究が始まりました。同じくその頃、研究所内の他の部長に声をかけていただき、当時食品添加物として使われラットの胃にがんを引き起こすことが疑われていた合成抗酸化剤BHAの研究班に加わりました。BHA代謝物の活性酸素種の発生能と発がん性との相関の化学的解析に必死に取り組んだのをなつかしく思い出します。その直後の1988年に京都で開催されました国際フリーラジカル学会が、私と現在の酸化ストレス学会との出会いです。あの時の吉川先生のバイタリティーは今でも目に残っています。その後、2001年に名古屋市立大学(名市大)に移りましたのちも引き続き活性酸素種のケミカルバイオロジー研究を展開し、今回の受賞研究である活性酸素種(ROS)や活性窒素種(RNS)の発生剤ならびに検出剤、さらには、細胞内でオルガネラ特異的に酸化ストレスを評価できる化合物の開発研究に発展しました。今回の私の受賞は、国立衛研の福原先生や名市大の中川准教授をはじめとする研究を支えてくれた多くのスタッフや学生たちの努力によるものであり、彼らに心からありがとうの言葉を贈りたいと思います。NOとスーパーオキシドに始まった私の活性酸素種研究は、その後、ONOO⁻、HNO、H₂Sに広がりました。細胞内で部位特異的にこれらの活性酸素種を発生する化合物、あるいは、選択的に検出する化合物は、細胞内酸化ストレス評価系の構築に役立つのみならず、酸化ストレス制御による医薬品の開発にも有用と確信しています。私自身は、今までと同様に化合物の化学的性質の理論的解析に立脚した物作りの化学を追及し続けることにより、今後とも酸化ストレス研究に少しでも貢献していきたいと考えています。皆様これからもよろしくお願ひいたします。

「2011年 学術賞を受賞して」

鈴木 秀和

慶應義塾大学医学部 准教授



この度は、日本酸化ストレス学会の学術賞をいただき誠にありがとうございました。ご審査いただいた学会の先生方に謹んで深甚なる感謝を申し上げます。

私は、本学会の一つの前身であります、「日本過酸化脂質・フリーラジカル学会」、そして、もう一つの前身であります「日本フリーラジカル学会(国際フリーラジカル学会SFRRの下部組織)」の両学会にて育てていただき、2007年からは「日本酸化ストレス学会」(英文名称: SFRR Japan)の評議員として学会での勉学の間をいただいで参りました。1989年に医学部を卒業後、初めて出席した研究会が、「化学発光:ケルミネスセンス」に関する研究会でした。そのころ、研究室で、多くの先輩のご指導のもと、白血球からの活性酸素の検出をケルミネスセンス法で定量を行い、その後、肝虚血早期に小葉中間帯の酸化ストレスと細胞死の蛍光生体顕微鏡的解析に傾倒し、本障害機転におけるプロスタグランジンE₁の効果を検討することで、学位(博士(医学))をいただきました(J. Clin. Invest.93:155-164, 1994)。その後、1993年にはカリフォルニア大学サンディエゴ校の生体医工学研究所の微小循環研究室に留学し、虚血性微小循環障害や高血圧状態における血管内皮の酸化ストレスについての基礎的研究に従事しました。帰国後は、消化器内科医としての研鑽を積み傍ら、胃粘膜における*Helicobacter pylori*感染と酸化ストレス制御について検討し、消化管粘膜傷害機転や新規治療法の開発研究を行ってきました。その間、2002年には、大阪で、日本フリーラジカル学会奨励賞をいただき、その後の研究に対する大いなる激励となりました。その後、研究領域を粘膜層ばかりでなく、筋層や自律神経系にも拡大し、消化管運動障害や機能的消化管疾患の病態や治療を研究しております。以上の如く、私は、終始一貫して、外的内的侵襲に対する生体反応を追求して参りましたが、どの局面においても「酸化ストレス」は共通の基本現象であったといっても過言ではありません。ベッドサイドの内科医として病態を考察するとき、常に、この視点を持ち続けられたことは、自分にとって非常に幸運であったと実感しております。このたび、これまでの20年間の研究をご評価いただき、北海道のルスツで、日本酸化ストレス学会「学術賞」をいただいたことは、大変光栄なことであり、関係の諸先生方に、重ねて感謝申し上げます。



板部 洋之

昭和大学薬学部 教授

この度は、日本酸化ストレス学会学術賞を頂き、大変光栄に感じております。これまでの研究活動においてご指導下さった、あるいは共同研究などでお世話になった多くの先生方に厚く感謝申し上げます。

私は大学院での研究テーマで過酸化脂質と扱うことになり、本学会の前身である日本過酸化脂質学会に所属させて頂きました。この分野の歴史は古く諸先生方が切り開かれた多くの過酸化脂質研究の蓄積があることを感じました。留学を経て帰国後、動脈硬化病巣特異的抗体の作製を命じられ、疾患に関わる新規タンパク質を探そうとしていたのですが、意外にも酸化ホスファチジルコリンに対するモノクローナル抗体を得るという幸運に恵まれ、再び過酸化脂質に深く関わるようになりました。以来、生体内で起こる脂質の酸化変性の実態を明らかにし、過酸化脂質の疾患への関わりを証明したいと考えてきました。ヒト血漿中の酸化LDLの定量に成功し、また免疫組織化学で冠動脈疾患をはじめ種々の組織病変で過酸化脂質の組織沈着が確かめられました。

ヒトゲノムが解読され、オミクス研究が盛んに行われ、1分子の動きも可視化できる時代になりました。こうした最新の技術を活用して、過酸化脂質の生体内での動きと疾患における役割を明らかにしていきたいと願っています。「古くて新しい」過酸化脂質に若手研究者の方々に興味を持って頂けるよう、新たな試みにも取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

「2011年学術奨励賞 を受賞して」

吉富 徹

(筑波大学 数理工学系研究科)



この度は学術奨励賞を頂き、大変光栄に感じております。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、第64回学術集会会長 河野雅弘先生をはじめとする本学会の先生方に心より御礼申し上げます。私は、現在、「酸化ストレス疾患に対するROS消去型ナノ粒子治療」に関して研究を行っております。本賞を頂くにあたり、学生時代からご指導を賜っております筑波大学数理工学系教授 長崎幸夫先生に心から感謝申し上げます。また本学会に参加するきっかけを与えてくださり、共同研究を通して医学・酸化ストレスに関して御教授賜っております筑波技術大学 平山暁先生、筑波大学医学部 松井裕史先生に、この場をお借りして感謝申し上げます。まだ本学会に参加して四年という短い期間ではありますが、様々な先生方との議論・交流の中で大きな刺激を受け、酸化ストレス研究の面白さを感じております。我々の研究が、酸化ストレス研究に少しでも貢献出来るよう、今後とも努力していきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。



七里 元督

(独)産業技術総合研究所健康工学研究部門)

この度は、学術奨励賞を頂き、大変光栄に感じております。選考に関わった多くの先生に厚く御礼申し上げます。私は、医学部を卒業し、実際の臨床と実験研究を始めました。臨床ではしばしばどの時点で患者の異変に気づけば良かったのか?何を目安に治療を進めるのか?という疑問にぶつかりました。この観点から私は早期診断における酸化ストレスの重要性に着目し研究を行っております。臨床で遭遇する疾患と酸化ストレスの評価、抗酸化治療に関して、今後もこの受賞を励みに研究を積み重ね、成果を発表してまいりたいと考えている所存です。今後とも御指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

岡崎 泰昌

(名古屋大学大学院医学系研究科)



この度は、栄えある日本酸化ストレス学会学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じております。学会長 河野雅弘先生、日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、並びに関係の諸先生方に御礼申し上げます。私は平成13年に岡山大学を卒業後、岡田茂名誉教授が主宰されておりました第一病理学教室に入局後、平成14年より本学会に参加させて頂き、研究活動を継続する刺激を頂いて参りました。平成21年より、豊國伸哉教授が主宰されておりました教室に採用頂き、ラットを用いた実験モデルを利用し、悪性中皮腫の研究テーマとさせて頂いて参ります。酸化ストレスは悪性中皮腫を含む多くの疾病の原因となる重要な疾患概念であり、奨励賞受賞を励みに、酸化ストレスと疾病の研究に邁進したいと思っております。引き続き、会員の皆様を始めとする多分野の研究者の方々に注目していただける研究成果を発信できるように、微力ながらも、努力致したいと思います。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。また、今回の受賞の榮譽に浴することは、ご指導を賜っている豊國伸哉教授を始め、研究室の諸先生方のご助力なしには成し得なかつた成果であり、この場を借りて、感謝申し上げます。

2011年度より、下記新しい賞が授与されることとなりました。
※学会のOfficial JournalであるJCBNに前年度発表の最優秀論文
第1回受賞者

「八木記念学術奨励賞を受賞して」

多田 美香

東北工業大学共通教育センター・理数教育部



この度は名誉ある八木記念学術奨励賞を賜り大変光栄に存じております。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、前理事長 吉川敏一先生、第64回日本酸化ストレス学会学術集会会長 河野雅弘先生をはじめ、日頃よりご高配いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

本受賞論文研究では、電子スピン共鳴 (ESR) スピントラップ法によってメラニン合成の初期反応であるtyrosine-tyrosinase反応過程で生成する水素ラジカル(•H)を確認いたしました。電子やプロトンの流れは生命現象を支える重要な素過程であることから、酵素反応における•Hの存在は非常に興味深く、一方では反応メカニズムの複雑さ故に多くの課題が残っております。本受賞を励みに研究を継続し、微力ながらその成果が酸化ストレス分野の発展に寄与いたしますよう努めて参ります。今後とも変わらぬご指導の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

◆◆◆ 関連学会 開催案内◆◆◆

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

第28回臨床フリーラジカル会議

会 期: 2012年1月20日(金)p.m. ~ 21日(土)a.m.
会 場: 烟河(けぶりかわ) 会議室 (京都府亀岡市)
〒621-0251 京都府亀岡市本梅町平松1-1
TEL 0771-26-2345
http://www.keburikawa.com
当番世話人: 吉川 敏一
(京都府立医科大学学長)



問い合わせ先: 臨床フリーラジカル会議 事務局
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
e-mail: handao@koto.kpu-m.ac.jp

宿泊を伴う研究会を予定しております。若手講演者セッションも設ける予定ですので、是非多数ご参加下さい。

16th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International

Date: 6-9 September 2012.
Venue: Imperial College London,
South Kensington, UK
Sign up for updates now,
Visit www.SFRRImeeting.org



Young Investigator Awardの授与を予定しております。
会期に先立って、公募予定ですので、発表予定の若手演者の方は、是非ご応募下さい。詳細は学会HPをご確認下さい。(2012年5月頃から公募予定)

6th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research Asia

Date: August 28th to Sep. 1st, 2013(Tentative)
Venue: Chang-Gung University in Taoyuan,
Taiwan (Tentative)
President: Prof. Daniel Tsun-Yee Chiu (President of SFRR Taiwan)



SFRBM's 19th Annual Meeting The SOCIETY FOR FREE RADICAL BIOLOGY AND MEDICINE

Date: November 14 - 18, 2012
Venue: Hilton San Diego Bayfront Hotel
California USA



◆◆◆ その他各賞受賞について◆◆◆

第5回SFRR Asia (2011.8.31-9.4 鹿児島)の際に、下記の5名が日本酸化ストレス学会 奨励賞を受賞されました。

水戸文弥 (九州大学大学院)

この度は、日本酸化ストレス学会Young Investigator Awardを頂き、大変光栄に存じます。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生ならびに、関係者の先生方に深く御礼申し上げます。今後も、研究活動に邁進し、酸化ストレス分野の発展に貢献できたいと思っております。また、本研究を遂行するにあたり、熱心に指導していただきました九州大学薬学研究院准教授 山田健一先生、および研究室の皆様はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

岡崎 泰昌 (名古屋大学大学院 医学系研究科(生体反応病理学))

この度は、栄えある日本酸化ストレス学会Young Investigator Awardを頂き、大変光栄に存じております。学会長 馬嶋秀行先生、事務局長 犬童寛子先生、日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、並びに関係の諸先生方に御礼申し上げます。この受賞を励みに、酸化ストレス研究を更に邁進し、会員の皆様を始めとする多分野の研究者の方々に注目して頂ける研究成果を発信できるように、微力ながらも、努力致したいと思っております。今回受賞の栄誉に浴することは、ご指導を賜っている豊國伸哉教授を始め、研究室の諸先生方のご助力なしには成し得なかった成果です。また、豊國伸哉教授を中心とした教室運営のお力になり、新会員の勧誘を通じ、学会の発展に貢献させて頂きたいと存じます。

藤野 剛雄 (九州大学)

この度、第5回SFRR-ASIAにおきまして日本酸化ストレス学会Young Investigator Awardを頂き、大変光栄に存じております。日本酸化ストレス学会理事長・小澤俊彦先生、ならびに関係の諸先生方に御礼申し上げます。今後もこの受賞を励みに、社会に還元できるような研究成果を残せるよう努力したいと思います。引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。最後に、日頃より御指導を賜っております九州大学大学院医学研究科循環器内科学・砂川賢二先生、井手友美先生、同臨床検査医学・東康天先生、ならびに研究室の諸先生方に、この場を借りて感謝申し上げます。

角田 智志 (山形大学大学院医学系研究科)

この度、第5回SFRR Asiaにて日本酸化ストレス学会Young Investigator Awardを受賞することができ、大変嬉しく思っております。本受賞にあたり、日頃よりご指導頂いております山形大学大学院医学系研究科、藤井順逸教授をはじめ、酸化ストレス学会諸先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。今後も酸化ストレス研究の発展に貢献できるよう日々精進していく所存です。ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

辻 俊史 (京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学)

今年度、鹿児島で開催されました5th SFRR-Asiaにおきまして、Young Investigator Awardという栄誉ある賞をいただき大変光栄に存じております。研究を行うに際しましてご指導いただきました吉川敏一先生、内藤裕二先生、高木智久先生、半田 修先生をはじめ研究室の先生方に厚く御礼申し上げます。今回このような大変名誉ある賞をいただいた事を励みに、更に研究に精進して参りたいと存じます。酸化ストレスの研究を始めてまだ日も浅いのですが、今後この分野における研究の発展に少しでも貢献できますよう精進して参る所存です。今後とも変わらず御指導頂けますようお願い申し上げます。



(受賞者 左手から 水戸・岡崎・〔小澤理事長〕・藤野・角田・辻)

本会では、今後も、これまでの功績を称え、また、今後の活躍を期待し、各種賞の授与を行う予定です。自薦他薦を問いませんので、是非多くのご応募・ご推薦お待ちしております。奨励賞応募については、年次学術集会のご案内をご参照下さい。

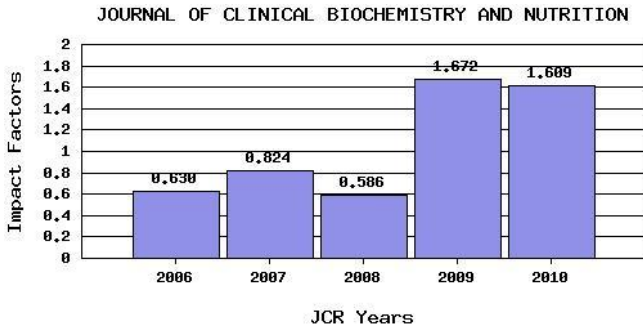


オンラインによる投稿随時受付中！
下記HPよりお入り下さい。
<http://sfrj.umin.jp/JCBN.htm>

注意！ Online SubmissionのURLが変更
になってます。

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

現在の Impact Factor : 1.609 (2010)



SFRR Asia オフィシャルジャーナル
Free Radical Research is the official journal
of the Society for FreeRadical Research



会員特別価格での定期購読の
受付を行っています。

Special online subscription rate of **75 UK pounds per year** (January 1 to
December 31; individual basis, not institutional).

- Impact Factor 2010 Impact Factor: **2.805**
- Publication Frequency: 12 issues per year
<http://www.informaworld.com/smpp/title~content=713642632>

*** 次回第6回SFRR ASIAは、下記の通り開催予定です。***

6th SFRR Biennial meeting
Date: August 28th to September 1st, 2013 (Tentative)
Venue: Chang-Gung University in Taoyuan, Taiwan (Tentative)
President: Prof. Daniel Tsun-Yee Chiu of SFRR Taiwan

例年通り、YIA(若手奨励賞)を予定しておりますので、奮ってご応募下さい。2011年度YIAは、第5回SFRR Asia(2011年9月鹿児島開催)の際に授与され、日本からは、津川仁(慶應大)、寄木浩行(京都府立医大)、吉富徹(筑波大学)の3名が選出されました。2012年開催のSFRR International(ロンドン)においてもYIAを予定しております。

第5回SFRR Asiaの際に、SFRR Business Meetingが開催され、Asia役員の内藤、馬嶋に加え、日本酸化ストレス学会より小澤、吉川、豊國寺尾、山本、半田各メンバーが出席しました。



SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

シリーズ:酸化ストレスのつぶやき 第2回



中川 秀彦

名古屋市立大学大学院薬学研究所

サント。7月を前に学生がつぶやきはじめた。何のことも聞いてみると「日本酸化ストレス学会学術集会」のことだ。「酸化ストレス」だ。略し過ぎだろう。そういえば、私が大学に異動してきたばかりの時、「そろそろシューズをはじめなきゃ」と聞いて全く意味が分からなかった。就職活動という短い言葉をさらに省略するという発想自体が理解できないが、さすがに今では「今年はシューズ厳しいようだねえ」などとイマドキの言葉を使いこなせるようになった。「ケータイ」も市民権を得ている。携帯しているものはいっぱいあるはずだが、ケータイといえば電話のことでなりました。もはや「電話」として使用する頻度も減って、省略形の方が実体を表しているかもしれないが、私が小さいころは言葉をなんでも略してという怒られたものだが、今は昔である。

この業界では英語は必須の教養だが、英語の学術用語には実に略語が多い。「活性酸素種」のことをROSというが、これはReaction Oxygen Speciesの略だ。漢字のような表意文字と違って、表音文字を使う英語はどうしても語句が長くなりがちだから、略語を使うことで効率よく記述できる。DNAやNADPHなどは略語であることを忘れてしまうくらい当たり前に使われているが、モノによっては分かりにくい場合もある。酸化ストレス研究者にとっては、IAPはInhibitor of Apoptosis Proteinであろうか。私が学生の頃、IAPは薬理の授業で百日咳毒素(Islet Activating Protein)として登場しそのように覚えていた。紛らわしい例もある。「活性酸素」は研究者によってはReactive Oxygen Intermediatesという人もいてROIと略す。私は光を使った活性酸素の研究をしているが、光制御やイメージングの研究分野でROIとは、Region Of Interestのことだ。

いままでも無関係と思っていた現象が意外なところで繋がって、分野が融合したとき、重要な学術用語が同じ略語になってしまうケースはないのだろうか。酸化ストレス学会はまさに学際的な研究領域の典型であろう。それぞれの専門性を活かしつつも、異なる専門の研究者に「分かる」研究を進めることで、真の融合領域が生まれると想い、共通の言葉で議論できることが研究を加速するだろう。学術用語をうまく使いこなしたい。大学での研究は学生との共同作業だ。そういう意味では、わたしも学生のことばを理解できないと、真の共同作業はすすめられないに違いない。省略形の言葉を嫌わずに、少しは使いこなせるように努力しよう。とりえず、昨日、学生がしゃべっていた「コジナル」が何のことか、明日聞いてみよう...

◆◆◆ 事務局より ◆◆◆

【会費納入のお願い】

理事・評議員	12,000円/年
一般会員	7,000円/年
学生会員	2,000円/年
賛助会員	100,000円/年 一口



滞りが続きますと、退会処分となることがありますので、必ず会費を納めてくださいますようお願い申し上げます。

【会員情報 変更・追加等連絡のお願い】

会員情報変更などが行われていない為に、連絡先不明となることが多発しております。転居先不明などで連絡が取れない場合、学会情報などをお送りすることが出来ません。必ず、変更手続きを事務局宛ご連絡下さいますよう、重ねてお願い申し上げます

♪♪♪♪♪ SFRR Newsletter 2012年1月号
発行:2012年1月1日

SFRR Japan Newsletterに掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局 (広報委員会:内藤裕二・半田 修)
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521
E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp
HP: <http://sfrj.umin.jp/index.htm>